

“ながれやまカフェ” 誕生秘話！
カフェ主宰 春日井 いつ子

昨年6月、樋野先生との面談の恵の日、偉大なる先生とは露程も知らず、最初に手にした先生の本がコーディネートに関する物でしたので養成講座の件を尋ねました。希少癌で大病した割には心身ともに乗り越え、元気一杯の私に先生は「カフェを開くといいね」と勧められました。元気とは言え、私も流石に「それはちょっと無理、今は無理、ずっと無理」と後ろ向きでしたが教会員であるなら尚更良いと押し切られた格好で牧師夫妻も快諾して動き出しましたが、さあ、それからが大変！。パソコンになど触れた事の無い機械音痴、樋野先生とのコミュニケーションや事務局との資料作成でメールアドレスが必須条件。かくして専門の方に習いどうにか辿り着き現在に至っています。

昨年12月、先生による開所記念講演会が開かれ、カフェは今年1月からスタート、現在隔月ごとに開いています。わが教会には和室もあり定員は10名ほどです。「小さな部屋には密度効果と言う何でも自然に話せる空気があるね」とは樋野先生の弁。毎回来て下さる方、当日飛び込みの初めての方、カフェを開きたいので見学を兼ねる方等色々です。人を楽しませる事の得意な私です。カフェは終始笑いの渦です。幸せなお顔で帰られる皆様の姿に救われています。

「マギーズ東京」を訪問して
佐久ひとときカフェ 井出 智子

新橋から「ゆりかもめ・市場前」駅に行き、北口に降りると、前方にTBSの劇場が見えてきました。その近くに『マギーズ東京』はあり、スタッフの方たちが笑顔で迎え入れてくれました。「何処でもどうぞ」との優しい声で、私はキッチンが備わった部屋の椅子に座りました。そこにある机は樹齢300年以上前の大木を切って造ったとのこと。その木の年輪と外のポーチの板が合わせてあり、広さと伸びやかさを出していました。

向こうには東京湾、東京タワーも上半分見ええました。建物の影になって少し隠れてしまっているけれど富士山も望めて周りには色とりどりの草花が植えられ、リラックスマードの落ち着いた部屋でした。

ほかに本なども読める別室があり、短い渡り廊下の向こうの別棟には4人程が囲んで座れる机と椅子が置かれていました。

今回訪問させていただき、がん哲学カフェの本来のあり方を再確認出来たと共に、ほぼ常時に扉が開かれているこの『マギーズ東京』が羨ましくなりました。

訪れた6月2日。この前々日には金沢の「元ちゃんハウス」の西村先生が亡くなられました。見学日はそのお通夜の日にあたり、何か先生に伝えなかった事を残された気になった日でもありました。合掌！



西村元一先生をしのいで

第25回 金沢がん哲学外来

北國新聞

(21) 金沢圏 2017年(平成29年)6月5日(月曜日) 北

優美な音色を響かせる出演者
|| 金沢赤十字病院



がん患者や家族を対象にした第25回金沢がん哲学外来(北國新聞社後援)は

西村さんしのび集う

金沢赤十字病院 がん哲学外来

4日、金沢市の金沢赤十字病院で開かれ、約40人が、5月31日に胃がんのため58歳で死去した同病院副院長の西村元一さんをしのびながら、老いや病氣、死について考えた。

金大附属病院緩和ケアセンター長の山田圭輔医師が「がん哲学外来とは何か」と題して講演した。山田医師は、2015年3月に進行性の胃がんが見つかったから執筆や講演で啓発活動が続けた西村さんとの思い出を振り返り、治療だけでなく、患者の精神面への支援の大切さを説いた。

オカリナグループ「ひまわりグループ」によるコンサートや、山田医師による外来相談も開かれた。

金沢圏

金沢がん哲学外来の開催
金沢日赤病院にて(6月4日)